



第90号
平成20年5月

子育て施設課
電話 0823-25-3144

【 発 達 障 害 】

発達障害という用語自体は診断名や障害名ではなく、一群の障害をひとまとめにして呼ぶ用語です。通常、精神遅滞、学習障害、注意欠陥多動性障害、広汎性発達障害の4つを指します。これらに共通するのは、一定の発達・行動上の特徴が小児期からみられ、原因は原則として生まれながらの個人的な脳の機能異常と考えられています。

精神遅滞

精神発達遅滞または知的障害とも呼びます。精神発達が全体的に平均より遅れている場合です。遅れの有無や程度は発達検査で調べ、発達指数または知能指数で表されます。一般には、指数が70以下で、その結果生活に支障を来している場合に、精神遅滞と診断されます。時に、過度の恐怖心や攻撃的行動がみられます。

援助方法は、学習を含む生活全般への根気強い指導が必要で、特に日常生活で必要な能力を少しでも身につけることが大切です。

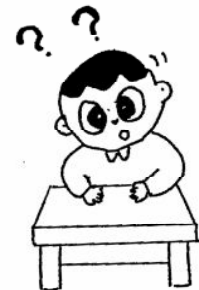


学習障害

精神発達の遅れがみられますが、精神遅滞のような全体的な遅れではなく、部分的な遅れです。つまり平均的に発達している部分と遅れて発達している部分とが混じっています。

字を読む力の発達が遅れる読字障害、字を書く力の発達が遅れる書字障害、計算の力が遅れる算数障害などがあります。遅れている能力以外の発達には、遅れはみられません。

援助方法は、遅れている能力を他の能力で補う、得意なことを積極的に伸ばすなどです。



注意欠陥多動性障害

ADHDとも呼びます。

注意力が不十分で（不注意）落ち着きなくよく動き（多動）、予測のつかない行動をする（衝動性）のが特徴です。調子に乗りすぎてケガをしたり、勉強でも不注意のために本来の力を十分発揮できないことがあります。

援助方法は、落ち着いて集中力を高める環境づくりと、好ましい行動パターンを身につけることができるような接し方を周囲の大人が心がける必要があります。症状のために生活がとても難しい場合は、薬での治療が行われることもあります。



広汎性発達障害

この中にはいくつかの障害が含まれますが、最もよくみられるのは、自閉性障害（自閉症）とアスペルガー障害です。どちらも対人関係とコミュニケーションが難しく、物事への興味の範囲が限られていて、パターン化した行動が多くみられます。しばしば、常識的なルールに従って行動することが難しいため、特に保育所・学校などの集団行動での困難さが目立ちます。

援助の方法は、最も大切なこととして、周囲の大人が障害の特徴をよく理解することです。そして子どもが理解しやすい伝え方で、日常生活上の指導を根気強く続ける必要があります。

最後に、発達障害をもつ子どもへの援助で忘れてならないことは、子どもの「心」への配慮です。障害そのものへの対処も重要ですが、様々な困難を感じながら日々生活する子どもが、自信をなくしたり、いじけたりしないように、周囲の大人が気をつけたいものです。

